

令和7年度

「運営に関する計画」

最終評価全体会

大阪市立北中島小学校

令和8年2月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校の子どもたちは、明るく元気な子が多く、これまでの取組の中で、自ら進んで挨拶をする子どもたちが増えている。永年地域の見守り隊をしていただいている方々から大きく称賛されており、地域の方々の幸福感につながっている。また、日々の生活での教職員と子どもとのかかわりや、係・当番活動、クラブ活動、委員会活動などを通して、自主的・主体的に行動する子どもたちをはぐくんできている。なかよし班活動(縦割り班活動)では、上級生が下級生の面倒を見ることが定着しており、異学年の子ども同士のつながりも深まってきている。

これまで本校の子どもたちは、自己肯定感の低さが課題とされてきた。この点については、地域の方々の心配も大きい。その課題解消に向け、令和5年度より、子どもたちに寄り添い、子どもたちの頑張り、取り組む姿勢、成果等をしっかりほめることを大切にしてきた。令和6年度からは、これまで行ってきたことではあるが、成果は出なくとも一生懸命頑張る姿、熱心に取り組んでいる姿をしっかり認めることをあらためて確認し、子どもたちの自己肯定感と自己有用感の向上をめざしてきた。教職員みんなで同じ方向性をもって子どもたちにかかわってきたことで、これまで課題とされてきた自己肯定感の低さについても改善の兆しが見えてきている。大阪市学力経年調査児童質問紙の「自分にはよいところがあると思いますか」の質問項目について、令和6年度は大阪市平均を超えることはできなかったが、大きな差はなくなってきた。自己有用感については、児童質問紙の「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の質問項目について、肯定的に回答する子どもの割合が、令和6年度に初めて大阪市平均よりも高くなった。令和5年度末の運営に関する計画最終評価で『自己有用感を高める取り組みについては、個人差が大きく継続した声掛けや支援が必要と感じた』とあがったことを受け取り組んできたことが、客観的なデータで見える形であらわれてきたのである。さらには、児童質問紙の「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」の質問項目においても、肯定的に回答する子どもの割合が、令和6年度に初めて大阪市平均を超えることとなった。令和5年度末の振り返りをもとに令和6年度当初に課題としてあげていたことが、改善の兆しを見せてきているのである。教職員みんなで力を合わせ取り組んだことが、子どもたちの変容を生み、成果となってあらわれてきている。学習面でも、普段の学習において前向きに努力する姿がたくさん見られている。大阪市学力経年調査児童質問紙でも、算数・理科・社会においては、「好きですか」「よく分かりますか」の質問項目について、肯定的に回答する子どもの割合は、大阪市平均を2年連続で超えることとなった。また、大阪市学力経年調査の標準化得点においても前年度を上回ったり、経年調査が大阪市平均の7割に満たない子どもの割合も減少したりと、成果が表れている。様々に成果が表れてきてはいるものの、令和6年度の運営に関する計画最終評価において、次年度への改善点で『自己有用感を高めるためにさらなる取り組みが必要である。今後も自主教材を継続して実施したり、児童同士がお互いの良いところを見つけて、それを素直に表現できたりするような活動を全体として行っていく必要がある。』『目標は達成できているが、1学期のアンケートでの達成状況より3学期のアンケートの数値が下がっているので、引き続き一人ひとりのよいところを褒め合う活動などを継続して行う必要がある。』とあが

っている。今年度も引き続き、自己肯定感・自己有用感の醸成を進めていく必要がある。また、「人が困っているときは、進んで助けていますか」の質問項目について、校内調査では目標値を達成しているものの、大阪市学力経年調査児童質問紙では肯定的な回答が大阪市平均よりも低い状況にある。この点については、今後の課題と感じる。

学習面においては成果があらわれてきてはいるものの、運営に関する計画最終評価からも読書面での課題が継続して表れている。「読書は好きですか」の質問項目について、校内調査では目標値を達成してはいるものの、大阪市学力経年調査児童質問紙では肯定的な回答が大阪市平均よりも低い。また、「学校の授業時間以外の読書時間」に関する質問項目で、最も否定的な回答をする子どもの割合は、ここ3年間連続で大阪市平均よりも高くなっており、令和6年度が最も高くなってしまった。読書は語彙力・表現力等に影響を与えるものであり、学力の基礎をつくりあげるものでもあると言える。今年度から主幹司書が配置され、週4回学校図書館にいることになる。新たな取り組みを構築し、課題解消を進めていきたい。

運営に関する計画の最終評価から見えてきた他のこととしては、運動面における意識（運動やスポーツをすることが好きか）の向上という成果があがっているが、『次年度は2学期から運動場が元の大きさに戻るので、今年度計画していたなわとび週間や駆け足週間などの取り組みを進めていけるようにする。』との改善点があげられている。次年度の取り組みに期待したい。また、睡眠にかかわる課題もあげられている。『学校だよりや保健だよりを通して睡眠の大切さを伝えているが、高学年を中心に就寝時間が遅い児童が多い。睡眠強調週間の期間は意識を高めることができる児童も、週間が終われば意識が低くなっている。家庭環境の影響も大きいように感じる。』との分析から、『継続的に声掛けや家庭への啓発をしていく。』との改善点があげられている。早くに寝る意識はついてきたものの起きることが遅くなってきており、そのことが遅刻数の多さにも繋がっていると考えられる。保護者啓発に力点を置いた取り組みを進める必要がある。

今年度は、運営に関する計画の中期目標を達成するための最終年度である。あらためて運営に関する計画を確認するとともに、昨年度取り組んできたことをさらに高めていき、今年度の成果にかえていきたい。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- ・令和7年度、全国学力・学習状況調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。
(令和6年度 96.6%) → (令和7年度 94.2% 達成)
- ・令和7年度、全国学力・学習状況調査の「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を令和3年度より5ポイント増加させる。
(令和3年度 70.9%、令和6年度 76.8%) → (令和7年度 90.2% 19.3Pt 増 達成)

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度の小学校学力経年調査・校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を40%以上にする。

(令和6年度 44.5%) → (令和7年度 40.0% 達成)

- 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.03ポイント向上させる。

(令和6年度 5年 国 1.06、算 1.15
4年 国 0.99、算 0.96
3年 国 1.05、算 1.06)

→ (令和7年度 6年 国 1.04、算 1.03

5年 国 1.05、算 1.03

4年 国 0.96、算 1.00 3学年6教科中2教科向上 未達成)

- 規則正しい生活を身に付けている児童の割合(全国学力・学習状況調査の「朝食を毎日食べていますか」、「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」、「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」それぞれに対して、肯定的な回答をする児童の割合)を令和7年度調査において85%にする。

(令和6年度 「朝食を…」92.5%
「毎日、…寝ていますか」82.5%
「毎日、…起きていますか」93.8%)

→ (令和7年度 「朝食を…」92.2%

「毎日、…寝ていますか」90.2%

「毎日、…起きていますか」96.1% 達成)

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和7年度、全国学力・学習状況調査の「5年生の時に受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか」の項目について「ほぼ毎日」と答える児童の割合を30%以上にする。(令和6年度 23.8%) → (令和7年度 29.4% 未達成)

- 令和7年度には、ゆとりの日を週に1回設定・実施する。学校閉庁日については、夏季休業期間中は4日以上、夏季休業期間以外の休業期間においては1日以上設定する。

→ (令和7年度 ゆとりの日を週1回設定・実施

学校閉庁日を夏季5日 冬季2日設定 達成)

- 令和7年度末の保護者アンケートの「学校は家庭・地域との連携を密にとっているか」の項目について、肯定的に答える保護者の割合を、85%以上にする。

(令和6年度 79.4%) → (令和7年度 87.2% 達成)

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

大阪市教育振興基本計画に掲げる目標（施策目標）を達成するための年度目標

- ・ 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を前年度以上にする。
(令和6年度 77.8%) → (令和7年度 80.1% 達成)

- ・ 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。

(令和6年度 3.16%) → (令和7年度 2.94% 達成)

※不登校児童の在籍比率・・・不登校児童数が、全校児童のうちの何割を占めているかを表した数。
 $(\text{不登校児童数}) \div (\text{全校児童数})$ で算出。

- ・ 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。

(令和6年度 40%) → (令和7年度 57.1% 達成)

※前年度不登校児童の改善の割合・・・前年度不登校児童をもとにして、何割が改善したかを表した数。

$(\text{前年度不登校児童数}) - (\text{不登校児童数}) \div (\text{前年度不登校児童数})$ で算出。

Ex. 20人 → 6人 $(20 - 6) \div 20 = 0.7 \rightarrow 70\%$

↑改善した人数

学校独自の年度目標

- ・ 小学校学力経年調査における「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に答える児童の割合を前年度より3ポイント増加させる。

(令和6年度 76.8%) → (令和7年度 81.0% 4.2Pt 増 達成)

- ・ 小学校学力経年調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的に答える児童の割合を前年度より1ポイント増加させる。

(令和6年度新設) (令和6年度 97.3%) → (令和7年度 96.0% 1.3Pt 減 未達成)

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

大阪市教育振興基本計画に掲げる目標（施策目標）を達成するための年度目標

- ・ 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を45%以上にする。

(令和6年度 44.5%) → (令和7年度 40.0% 未達成)

- ・ 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる。

(令和6年度 5年 国 1.06、算 1.15

4年 国 0.99、算 0.96

3年 国 1.05、算 1.06)

→ (令和7年度 6年 国 1.04、算 1.03

5年 国 1.05、算 1.03

4年 国 0.96、算 1.00 3学年6教科中2教科向上 未達成)

- ・ 小学校学力経年調査における「運動やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を68%以上にする。

(令和6年度 67.2%) → (令和7年度 67.0% 未達成)

学校独自の年度目標

- ・ 小学校学力経年調査における「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）1日当たりどれくらいの時間、読書しますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）」に対して、「全くしない」と答える児童の割合を、前年度より7ポイント減少させる。
(令和6年度 30.1%) → (令和7年度 28.9% 1.2Pt 減 未達成)
- ・ 校内調査において、11時以降に寝ている児童や8時以降に起床している児童の割合を前年度より減少させる。(令和6年度 11時以降就寝 25.5%、8時以降起床 7%)
→ (令和7年度 11時以降就寝 21.5%、8時以降起床 10% 達成&未達成)

【学びを支える教育環境の充実】

大阪市教育振興基本計画に掲げる目標（施策目標）を達成するための年度目標

- ・ 授業日において児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数の年間授業日に対する割合を前年度以上にする。(令和6年度新設)
(令和6年度 83.6%) → (令和7年度 1月 92.0% 達成)
- ・ ゆとりの日を週に1回以上設定・実施する。学校閉庁日については、夏季休業期間中は4日以上、夏季休業期間以外の休業期間においては2日以上設定する。
→ (令和7年度 ゆとりの日週1回設定・実施、学校閉庁日夏季5日、冬季2日設定 達成)

学校独自の年度目標

- ・ 令和7年度末の学校保護者アンケート「学校は家庭・地域との連携を密にとっている」に対して、肯定的に答える保護者の割合を85%以上にする。(令和6年度新設)
(令和6年度 79.4%) → (令和7年度 87.2% 達成)
- ・ 令和7年度末の学校保護者アンケート「学校は教室や廊下など、子どもたちが学ぶ環境を整えている」に対して、肯定的に答える保護者の割合を80%以上にする。
(令和7年度新設) → (令和7年度 89.4% 達成)

3 本年度の自己評価結果の総括

今年度も当初より、「学校教育目標」、そして新たに「めざす学校像」を組み込んだ「めざす子ども像・教職員像・学校像」の3つの柱、より具体的に示した学校経営の重点、それぞれについて共通理解を図った。積年の課題となっている子どもたちの自己肯定感の向上とともに、子どもたちが自己有用感を感じられることをめざし、「子どもたちと大切にしたいこと」「子どもたちへ大切にしたいこと」を改めて提示し、教職員一丸となって「一人ひとりの子どもを大切にしたい教育の推進」を行っていくことを、教職員全員で共通理解した。

子どもたちが安全で安心して学校生活を送ることができるよう、一人一台端末による「心の天気」や相談機能、アンケートなどを活用し、子どもたちの実態把握に努めた。また、生活指導部会やいじめ・不登校対策委員会などで実態や指導方法の共通理解を行い、教職員が子どもたちの姿を把握しながら教育活動を行えるようにした。さらには、関係諸機関と連携し、児童の実態に応じて様々な働きかけを行った。同時に、重点的に取り組んでいる、子どもたちの素直な気持ち、がんばっている姿、どんなことでも小さなことから児童をほめること、認めることを続けた。その結果、今年度の小学校学力経

年調査児童質問紙における「自分にはよいところがあると思いますか」に対して肯定的に回答する子どもの割合は、81.3%となり昨年度より 4.5 ポイント上昇した。また、最も否定的に回答する子どもは、5.4%と昨年度より 3.8 ポイント減少、大阪市平均より 1.5 ポイント減少というよい結果となった。自己有用感をはかる「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して肯定的に回答する子どもは、96.0%と昨年度より 1.3 ポイント減少したが高水準であり、大阪市平均よりも 0.9 ポイント高くなっている。不登校児童の在籍割合は減少し、改善割合は上昇していることも大きな成果であり、大阪市の施策に貢献しているといえる。これらは、間違いなく本校教職員が子どもたちのことを認め、子どもたちを褒めるということを実践し、尽力した成果である。

学力の向上にかかわっては、どの学年とも教科による違いはあるものの、標準化得点は概ね 100 を超えている。4 教科（5 教科）平均も 100 を超えている。しかし、対全国比となるとほとんどが 1.00 は超えてはいるものの、昨年度より向上したとは言えない状況にある。また、読書活動の推進について力点を置いてきた。教員の日常の指導や学校図書館主幹司書の取り組み、子どもたちが委員会活動で主体的に啓発活動を進めることなどを通して、小学校学力経年調査児童質問紙における「読書は好きですか」の項目においては大阪市平均を大きく上回ることができた。

体力の向上にかかわって、今年度から運動場が広くなり、子どもたちも伸び伸び活動できるようになった。また、昨年度同様大阪市や淀川区の出前授業の活用を増やし、意欲の高まりに努めた。その結果、小学校学力経年調査児童質問紙における「運動やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童は全市目標である 67%となった。しかし、本校の年度目標達成までには至っていない。体力テストの成績では、5 年生は男女とも全ての項目で大阪市平均を上回っており、全国平均を超える項目も数多くある。

子どもの学びを支える教育環境の面では、本校の ICT 機器活用率（一人一台端末活用率）は非常に高い。日々の学習・取り組みで、ICT 機器を日常的に活用することができてきており、子どもたちの教育に大きな影響を与えている。

本校がめざす「一人ひとりの子どもを大切にされた教育の推進」を具現化するものの一つとして、本校独自の自主教材である北中島プログラム【きこうよはなし】や【きこうよはなし おうちバージョン】（子どもたちが自分も友だちも大切に、よりよい関係構築のために、本校教員が心血を注いで作成したもの）がある。今年度で活用 2 年目を迎えるが、事前研修会・実践・事後の振り返りを丁寧に行い、次年度に向けての準備をしている。

今年度は運営に関する計画の最終年度となる。中期目標 8 項目のうち、6 項目を達成することができている。日々の実践をはじめ一つひとつの取り組みを、本校教職員が真摯に熱心に執り行ってきたことが大きな成果となってあらわれている。次年度から、新たな教育振興基本計画をもとにした運営に関する計画を作成していくことになるが、今後もチーム北中島として教職員一丸となって、子どもたちが安全で安心して学校生活を送ることができるようにし、子どもたちの学力・体力の向上に努めていきたい。また、環境美化の取り組みも含めて、子どもの学びを支える教育環境の充実に努めていきたい。

大阪市立北中島小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>大阪市教育振興基本計画に掲げる目標（施策目標）を達成するための年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を前年度以上にする。 (令和6年度 77.8%) → (令和7年度 80.1% 達成) ・ 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。 (令和6年度 3.16%) → (令和7年度 2.94% 達成) <p>※不登校児童の在籍比率・・・不登校児童数が、全校児童のうちの何割を占めているかを表した数。(不登校児童数) ÷ (全校児童数) で算出。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。 (令和6年度 40%) → (令和7年度 57.1% 達成) <p>※前年度不登校児童の改善の割合・・・前年度不登校児童をもとにして、何割が改善したかを表した数。 (前年度不登校児童数) - (不登校児童数) ÷ (前年度不登校児童数) で算出。 Ex. 20人 → 6人 (20 - 6) ÷ 20 = 0.7 → 70%</p> <p>学校独自の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校学力経年調査における「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に答える児童の割合を前年度より3ポイント増加させる。 (令和6年度 76.8%) → (令和7年度 81.0% 4.2Pt 増 達成) ・ 小学校学力経年調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的に答える児童の割合を前年度より1ポイント増加させる。 (令和6年度新設) (令和6年度 97.3%) → (令和7年度 96.0% 未達成) 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>「いのちについて考える日」の取組や「いじめについて考える日」、アンケート等の実態把握、自己有用感を高め自他の尊厳を認め合う学習活動を通して、いじめを許さない集団づくりに努める。(1-1)</p> <p>指標 「いじめについて考える日」の取組を年1回、「いのちについて考える日」の取組を月1回、いじめアンケートを年3回実施する。</p>	A
<p>取組内容②【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>道徳の時間をはじめとして、自他の尊厳を認め合う学習活動を通して、学校生活全体での指導により、児童の自己有用感を育てる。(2-1)</p>	A

<p>指標 校内調査で「人が困っているときは進んでたすけている」と答える児童の割合を80%以上にする。→(令和7年度7月91.6% 1月91.6% 達成)</p>	
<p>取組内容③【基本的な方向2 豊かな心の育成】 芸術鑑賞会・音楽鑑賞・民族芸能等の鑑賞及び音楽教育・体験活動の充実を通して情操教育を推進する。(2-1)</p> <p>指標 音楽科や図画工作科、学校生活等で、年1回芸術を鑑賞する機会を持ち、家庭内での情操教育のきっかけとする。体験的な活動を充実させるための支援を行う。</p>	B
<p>取組内容④【基本的な方向2 豊かな心の育成】 児童との対話、「心の天気」、スクリーニング会議、スクールカウンセラー等を活用し、子どもの実情に応じた丁寧な対応と情報共有を行い、不登校の早期対応・解消に努める。(1-2)</p> <p>指標 児童の状況に関する情報共有や不登校の未然防止や早期対応・解消に向けた教員間の情報交換を月1回実施する。</p>	A
<p>取組内容⑤【基本的な方向2 豊かな心の育成】 特別支援学級担任を中心とする全教職員による共通理解、支援を実践する。(2-4)</p> <p>指標 特別支援研修会を前後期に1回ずつ実施する。また、学年打合せに参加し、さらに必要な時には随時情報交換し、連携を深める。</p>	B
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>【中期目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度、全国学力・学習状況調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の項目について、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合は94.2%となり、目標を達成することができた。 ・令和7年度、全国学力・学習状況調査の「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合は90.2%となり、令和3年度70.9%より19.3ポイント増加させることができ、目標を達成することができた。 <p>【年度目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経年テストの結果、「いじめはどんなことがあってもいけないことだ」と「思う」児童の割合は80.1%となり、前年度よりも増えている。しかし90%には届いていない。 ・不登校児童の在籍割合は3.16%から2.94%に減少し、不登校児童改善の割合はR6 40%からR7 57.1%に増加しているのでよい傾向にあるといえる。 ・「自分にはよいところがある」と「思う」「どちらかといえば思う」児童の割合は80.1%となり、目標を達成することができた。 ・「人の役に立つ人間になりたい」と「思う」「どちらかといえば思う」児童は96.0%となり、わずかに目標を達成することができなかった。 <p>①「いのちについて考える日」「いじめについて考える日」の取り組みを予定通り実施した。自主教材「きこうよはなし」の全学年実施を通して命の大切さを育む学習を計画的に進めることができた。また、いじめアンケートを定期的の実施し、聞き取りを行い丁寧に対応することができていた。</p> <p>②R7の校内調査では91.6%となり、指標を大きく上回ることができた。困っている友だちへの声かけや、頑張った友だちを紹介する取り組みなどで助け合いの態度を高めることができた。</p>	

- ③劇鑑賞、作品展、こころの劇場など年間を通して計画していた体験的な活動を予定通り行うことができた。学年ごとの体験活動も順調に行われていた。
- ④各学級で「心の天気」を活用して児童の様子を把握して変化にいち早く気づく体制を整えた。学年会では個々の児童の状況を共有していた。また、月 1 回の生活指導部会だけではなく、いじめ・不登校対策委員会なども予定通り実施して、より詳細な情報を共有することができていた。スクリーニングも予定通り実施している。
- ⑤特別支援研修会を年間計画に沿って実施して、支援学級、通級学級に在籍する児童について校内で共通理解を深めることができた。特別支援担当が学年に属することで、日常的な情報交換もスムーズに行うことができています。

次年度への改善点

- ①今後も継続して取り組んでいくことが必要。
- ②今後も継続していくことが必要。
- ③芸術鑑賞を継続していく。家庭でも情操教育や体験的な活動ができるように啓発していく。
- ④今後も取り組みを継続していくことが必要。
- ⑤学年間だけではなく、もっと共通理解が進むように情報の共有をすることが必要。

(様式2)

大阪市立北中島小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>大阪市教育振興基本計画に掲げる目標(施策目標)を達成するための年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を45%以上にする。 (令和6年度 44.5%) → (令和7年度 40.0% 未達成) 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる。 (令和6年度 5年 国1.06、算1.15 4年 国0.99、算0.96 3年 国1.05、算1.06) → (令和7年度 6年 国1.04、算1.03 5年 国1.05、算1.03 4年 国0.96、算1.00 3学年6教科中2教科向上 未達成) 小学校学力経年調査における「運動やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を68%以上にする。 (令和6年度 67.2%) → (令和7年度 67.0% 未達成) <p>学校独自の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学校学力経年調査における「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)1日当たりどれくらいの時間、読書しますか(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)」に対して、「全くしない」と答える児童の割合を、前年度より7ポイント減少させる。(令和6年度 30.1%) → (令和7年度 28.9% 1.2Pt 減 未達成) 校内調査において、11時以降に寝ている児童や8時以降に起床している児童の割合を前年度より減少させる。 (令和6年度 11時以降就寝 25.5%、8時以降起床 7%) → (令和7年度 11時以降就寝 21.5%、8時以降起床 10% 達成&未達成) 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>読書に親しむための環境を整え、児童の読書に対する意識を高める。(4-1)</p> <p>指標 校内調査(児童)「読書が好きですか」に肯定的回答をする児童の割合を75%以上にする。 → (令和7年度 7月 81.0% 1月 79.3% 達成)</p>	A

<p>取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 主体的・対話的で深い学びの授業を追求するため授業研究を実施し、自分の考えを表現できる子どもを育てる。(4-2)</p>	A
<p>指標 全員授業(教員)とともに、研究授業を年間3回行う。学年ごとに指導主事や教育指導員から指導助言を受け、スキルアップを図る。</p>	
<p>取組内容③【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 読み・書き・計算などの基礎的・基本的な知識・技能を着実に身に付けさせるとともに、家庭学習も含めた学習習慣の定着を図り、習熟度レベルの向上を目指す。(4-1)</p>	A
<p>指標 月1回の教材研究日を設定し教材や指導法、学年間での系統性について研修を深める。</p>	
<p>取組内容④【基本的な方向5 健やかな体の育成】 体の使い方の工夫等、運動の楽しさを体感できる取り組みにより、進んで運動する姿勢を育て、体力・運動能力の向上に努める。(5-1)</p>	A
<p>指標 校内調査(児童)で、「運動や体を動かす遊びが好きですか」に、肯定的な回答をする児童の割合を85%以上にする。→(令和7年度7月89.4% 1月91.2% 達成)</p>	
<p>取組内容⑤【基本的な方向5 健やかな体の育成】 睡眠の強調週間を活用し、学級指導や、学校だより・保健だよりを通して睡眠の大切さを伝えるなどの啓発活動を行う。(5-2)</p>	A
<p>指標 睡眠強調週間を年に2回設定する。</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>【中期目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の項目について、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合は40.0%となり、目標を達成することができた。 ・小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.03ポイント向上させることはできなかった。 (令和6年度 5年 国1.06、算1.15 4年 国0.99、算0.96 3年 国1.05、算1.06) →(令和7年度 6年 国1.04、算1.03 5年 国1.05、算1.03 4年 国0.96、算1.00) ・規則正しい生活を身に付けている児童の割合(全国学力・学習状況調査の「朝食を毎日食べていますか」、「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」それぞれに対して、肯定的な回答をする児童の割合)は令和7年度調査において全て85%以上となり、目標を達成することができた。 (令和7年度「朝食を…」92.2% 「毎日、…寝ていますか」90.2% 「毎日、…起きていますか」96.1% 達成) <p>【年度目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最も肯定的に答える児童の割合は40%で達成できていないが、肯定的に答える児童の割合 	

は 80.7%で昨年度より 3.3Pt 向上している。

- ・ 5年生は達成できた。4, 6年生も 1.00 を超えているものがほとんどであり、昨年度よりも向上している。
- ・ 目標は達成できなかった。昨年度よりも 0.2Pt 下がっているが、校内調査「運動や体を動かす遊びが好きですか」に肯定的に回答する児童は 91.2%と高い数値であった。
- ・ 特に図書委員会での取り組みが盛んに行われていたので、昨年度よりも 1.2Pt 減少しているが、目標を達成することはできなかった。図書委員会の活動以外にも、本を手にとらない児童や読書が苦手な児童への取り組みも考えていく必要がある。
- ・ 11 時以降就寝の割合は 21.5%で目標を達成できた。8 時以降起床は目標を達成できなかった。しかし、保護者のコメントを見ていると、親子ともに睡眠についての意識の高まりを感じる事ができた。

①図書委員会の図書館開放や読書週間、スタンプラリーなどの委員会主催の行事が充実し、読書に対する児童の関心が高まった。また、図書支援員や、PTA 読み聞かせなど、本に触れる機会も多い。

その結果、「読書が好きですか」に肯定的に回答する児童の割合が 79.3%となり、目標である 75%を大きく上回った。

②年度当初の計画通り、研究授業を 3 回実施することができた。各部会や全体での協議を通して校内研究を着実に進められた。「生活・総合」と「学級活動」2 教科を研究教科とする初めての取り組みであったが、各教科の研修会を開いたり、指導助言を受けたりすることで指導力向上にもつながった。一人一回の公開授業も計画通り実施されているので、各教員のスキルアップを図ることができている。

③月一回設定した教材研究日を活用し、学年内や各部会で指導の方向性を共有することができた。また、研究部会やメンター研修などにも時間を充てることができ、研修も充実した。学年間、部会間の交流も活発になり、教員全体の授業力向上につながった。

④運動場の使用制限の解除や遊具が新設されたことで、休み時間に体を動かして遊ぶ児童が増えた。特に中庭の遊具は、多くの児童が利用し、外遊びの活性化につながっている。また体育の学習でも、広い運動場で学習を行えるようになったことで運動への楽しさを実感する児童が増加した。肯定的な回答は 91.2%となり目標を達成できた。

⑤学校だよりや保健だよりを通して、睡眠の大切さを継続的に発信し、年 2 回の睡眠強調週間を計画通り実施することができた。養護教諭や環境委員会が作成した資料をもとに、学級でも指導が行われ、児童の意識向上につながった。

次年度への改善点

- ①今年度の取り組みを継続していく。
- ②今年度の取り組みを継続していく。
- ③今年度と同じように教材研究日を月 1 回設定する。
- ④継続して指導していく。
- ⑤来年度も事前指導を行い、強調週間を年 2 回設定する。

(様式2)

大阪市立北中島小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>大阪市教育振興基本計画に掲げる目標(施策目標)を達成するための年度目標</p> <ul style="list-style-type: none">授業日において児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数の年間授業日に対する割合を前年度以上にする。(令和6年度新設) (令和6年度 83.6%) → (令和7年度1月まで 92.0% 達成)ゆとりの日を週に1回以上設定・実施する。学校閉庁日については、夏季休業期間中は4日以上、夏季休業期間以外の休業期間においては2日以上設定する。 → (令和7年度 ゆとりの日週1回設定・実施、学校閉庁日夏季5日、冬季2日設定 達成) <p>学校独自の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none">令和7年度末の学校保護者アンケート「学校は家庭・地域との連携を密にとってている」に対して、肯定的に答える保護者の割合を85%以上にする。 (令和6年度新設) (令和6年度 79.4%) → (令和7年度 87.2% 達成)令和7年度末の学校保護者アンケート「学校は教室や廊下など、子どもたちが学ぶ環境を整えている」に対して、肯定的に答える保護者の割合を80%以上にする。 (令和7年度新設) → (令和7年度 89.4% 達成)	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向6 教育DX(デジタルフォーメーション)の推進】 学習者用端末を活用した朝学習・家庭学習・教科学習等において、個別最適な学びと協働的な学びの質の向上をめざす。(6-1)</p> <p>指標 朝学習・家庭学習・教科学習等において、8割以上の児童がICT機器を活用する日数を週2~3日以上にする。</p>	A
<p>取組内容②【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 長時間勤務の解消を通じ、子どもたち一人一人に向き合う時間を確保する環境の実現をめざす。(7-1)</p> <p>指標 ゆとりの日を週に1回設定・実施する。</p>	B
<p>取組内容③【基本的な方向9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】 学力の状況などをはじめ、さまざまな学校情報を保護者や地域住民などに積極的に発信し、提供する。(9-1)</p> <p>指標 学校だより、学年だより、ほけんだよりを月1回発行し、学校についての様々な情報を定期的に発信する。</p>	A
<p>取組内容④【基本的な方向9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】 教職員で校内各所を点検し改善していくことにより、よりよい教育環境の実現をめざす。(9-1)</p>	A

指標 安全点検を月1回実施し、校内の教育環境の整備・美化に努める。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【中期目標】

- ・令和7年度、全国学力・学習状況調査の「5年生の時に受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか」の項目について「ほぼ毎日」と答える児童の割合は29.4%で、目標の30%以上を達成することができなかった。
- ・令和7年度には、ゆとりの日を週に1回設定・実施し、学校閉庁日については、夏季休業期間中は5日、冬季休業期中に2日設定したため、目標を達成することができた。
- ・令和7年度末の保護者アンケートの「学校は家庭・地域との連携を密にとっているか」の項目について、肯定的に答える保護者の割合は87.2%で、目標を達成することができた。

【年度目標】

- ・児童の8割以上がPCを活用した日数は、12月終了時点で年間授業日の91.1%と、目標を大きく超えて達成することができた。(追記：1月までで92.0%)
- ・ゆとりの日は、完全下校を伴う教材研究日と合わせ、週に1回の頻度で設定・実行することができた。学校閉庁日は夏季休業中は5、冬季は2日設定することができた。
- ・「学校は家庭・地域との連携を密にとっている」の問いに肯定的に回答する保護者は87.2%であった。
- ・「学校は教室や廊下など、子どもたちが学ぶ環境を整えている」という問いに「思う」と答える保護者は89.4%であった。

- ①心の天気の入力や生活科・図画工作科での写真撮影、デジタルドリル、スライド作成など、教科横断的にICTをほぼ毎日活用することができ、習慣として定着してきつつある。
- ②ゆとりの日は、完全下校を伴い呼称も変えている教材研究日と合わせて、週1回の頻度で設定・実施された。教材研究の時間や子どもたちと向き合う時間を確保することができた。
- ③各担当者から各たよりを月1回発行することができた。ほけんだよりは月1回以上の発行となることもあり、健康面の啓発も充実していた。150周年記念事業もあり、地域への発信の機会も増えた。
- ④安全点検を計画的に月1回実施し、校内の安全確保、環境整備・美化に取り組むことができた。それに加え、校内完全二足制の実施やそれに合わせた一斉清掃で、安全で快適な教育環境の維持・向上が図られた。

次年度への改善点

- ①継続して指導していく。教科での活用やソフトの統一など、系統性が持てるとなおよい。
- ②引き続き、ゆとりの日・教材研究日を同頻度で設定・実施する。
- ③引き続き、学校についての様々な情報を定期的に発信していく。
- ④引き続き、安全点検を定期的実施し、必要に応じて各箇所の環境整備に努める。